

SEINAN Spirit

No. **211**
西南学院大学
2019 Winter

SEINAN Spirit

No. 211

2019 Winter

2019年11月29日発行(季刊誌)

編集 / 西南学院総合企画部 広報校友課 〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92 ☎092-822-3324

発行 / 西南学院大学



気になるゼミナール

イベント
レポート

未来への、架け橋となる人へ。
西南学院大学のみなさんへ from MISIA×JICA

ハッシュタグ エススピリット #sspirit

大学生活のなかでふと目にする景色や
イベント、たくさんの笑顔や涙...
西南学院大学ならではの「瞬間」を覗いてみましょう!

大学広報誌 SEINAN Spirit インスタグラム開設記念
✕ フォトコンテスト 結果発表 ✕



大賞



気の合う
みんなと!



どこだか
わかる?



優秀賞

SEINAN Spirit 学生スタッフからのお知らせ

Instagram 「#sspirit」フォローしてね!

西南学院大学の季節の風景、何気ない1シーンをテーマに
「SEINAN Spirit」の学生スタッフが撮影した写真をアップ!
みなさんぜひフォローしてください!



西南学院大学

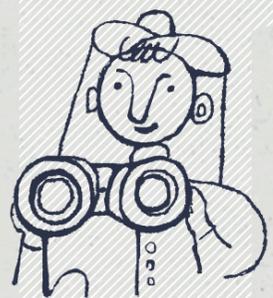
inspiring you
心と知を紡ぎ、世界へ

興味のあることを
とことん追究 できるって
面白い!

特集

卒業論文は、
自分だけの財産。

気になる
ゼミナール



主に3年次から始まる「ゼミナール」。

- 1、2年生の中には「そもそもゼミって何を学ぶの?」という疑問を持つ人がいるのではないだろうか?
 - また、ゼミ活動を行っている3、4年生も他の学部でのゼミはどのような活動をしているか知らない学生も多いのかもしれない。
- そこで、今回の特集では、「ゼミ」についてクローズアップします!

座学では得られない
発見がある。

学生以外の人と
触れ合える
チャンス!

こんな考え方ができるんだ!
ゼミで自分の成長を実感。

自分以外の考え方に
触れられるのが
ディベートの魅力。

一つのことを
仲間とやり遂げる
達成感は最高!

ゼミの学びって、
自由で
アクティブ。



CONTENTS

02 [特集] 気になるゼミナール

07 イベントリポート
未来への、架け橋となる人へ。
西南学院大学のみなさんへ from MISIA×JICA

09 西南学院大生、熱中の日々、今、私は、
人間科学部心理学科 3年 渡邊 陽子さん
11 MY ANSWER
法学部国際関係法学科 根岸 陽太准教授
経済学部経済学科 仲澤 幸壽教授

13 就活サブリ
内定者に聞きました!
15 Before⇒After 一步前へ。
国際文化学部国際文化学科 3年 梅田 美佑さん

16 Talk about global.
副学長(総務担当) 石森 久広教授
留学生別科 ミラクル・レイチェルさん
法学部法律学科 4年 寺田 光大さん
17 知の原点
文学部外国語学科フランス語専攻 武末 祐子教授

18 こんにちは先輩。
福岡市立西新小学校校長 南正覚 禎哉さん

19 NEWS & TOPICS
教授のヨノナカ考
人間科学部社会福祉学科 田原 亮二准教授

23 INFORMATION

25 決断ターニングポイント!
コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
マーケティング統括部 カテゴリーマネージメント企画部 深田 優さん

雲の柱
火の柱

#110

「共に何を歌うか」

「歌うこと」は個々の営みですが、「共に歌うこと」は一体感を通じて大きな力を生み出すことがあります。

今年創立100周年を迎えた西南学院グリークラブは、伝統と熱心な活動で知られていますが、その長い歴史の一時期に部員減少による休部の危機に見舞われたことがあります。この危機に立ち上がったのはOB達でした。思い出の大学チャペルに全国から集い、歌声を響かせることを契機として、クラブ再興運動を一丸となって開始したのです。

2019年の香港。自由と自治を求める大規模なデモ行進の折、人々の間で賛美歌が歌われていたことはあまり知られていません。賛美歌は、暴力という悲しい結末を回避し平和裏に解決するよう、多くの人に力と勇気を与えるようです。厳しさを増す衝突が収束し、香港の人々が自由で穏やかな日常を取り戻すことを祈りたいと思います。

西南学院大学には、キリスト教主義に基づいて自由と自主性を重んじる伝統がありますが、社会環境が急速に変化する中であって、個々人が心を合わせて協働することも求められています。建学の精神や伝統を大切にしつつ、私達は何を歌いどのようなハーモニーを奏でて一緒に歩むことができるでしょうか。今まさに考える時期にきています。

副学長(教育・研究担当) たて いし たけし
立石 剛



気になるゼミナール



ゼミの学びは どう生きている?

- 卒業生に聞きました! -

やりたい学びに
挑戦して得た力は、
すべて糧になる!



文学部外国語学科英語専攻 2014年卒業
とくなが なつみ
徳永 夏美さん
SMBCコンシューマーファイナンス株式会社
(明光学園高等学校出身)

ゼミで何を学んだ?

鳥越ゼミに所属し、「異文化」について学びました。国の違いだけでなく、「左利きと右利きの違い」「LGBT」など「これも異文化なんだ」というテーマも。日常の中に様々な異文化があることを知り、社会で多様な人と関わる上で役立っています。

ゼミの思い出は?

時間を忘れてディスカッションしたことです。意見がぶつかることもありましたが、新たな視点を持つ楽しさがありました。

ゼミの学びで 生きていることは?

自分の意見を伝える力と、相手の意見を聞く姿勢です。違う価値観を持つ人間が同じ目標を目指すにはこの2つが大切だと、社会に出て実感しています。

ゼミで吸収して ほしいことは?

ゼミは知りたいこと、やりたいことがあれば率先して挑戦できる場です。ゼミでどのように成長するかは自分次第。行動してこそ、得るものがあると思います。

気になるゼミナール



ゼミで学ぶ 意義とは?

- 副学長に聞きました! -

ゼミは小さな社会。
実社会を生きる術を
身に付けてほしい。



たていし たけし
副学長(教育・研究担当) 立石 剛

profile: 経済学部国際経済学科教授。経済学博士。九州大学経済学部経済学科卒業。研究分野は国際経済論、アメリカ経済論。著書に『米国経済再生と通商政策: ポスト冷戦期における国際競争』など。

知的興奮と人的交流は ゼミならではの醍醐味

ゼミナール(以下、「ゼミ」)は大きな教室での講義とは異なり、少人数制で行われます。教員と学生の間で双方向のコミュニケーションを交わし、学生の理解度を把握しながら授業を進めるため、丁寧な指導が受けられるのが特徴です。

また、講義では得られない高度な専門知識を修得すると同時に、修得した専門知識や研究手法を活用し、自ら設定した研究テーマを探究していくこともゼミならではの学びです。そして、その集大成としてまとめたものが「卒業論文」です。

では、ゼミで学ぶ面白さ、醍醐味とは何なのでしょう。

一つは、知的好奇心を満たす楽しさです。自らの興味関心のあるテーマを研究によって明らかにしていく。その過程は容易では

ありません。しかし、課題を解き明かした時の知的興奮は何ものにも代え難く、知識やスキルを総動員して粘り強く探究したからこそ得られる感動といえるでしょう。

二つ目は、人的交流の楽しさです。ディスカッションやディベートの中で意見がぶつかることもあるでしょう。でも、そこには勝ち負けはありません。堂々と自分の意見を発言し、

自分以外の意見を楽しみ、お互いの発言を尊重できる関係を築いていく。その結果、相手のこと、自分自身のことを知る良いきっかけになります。

また、これらを積み重ねて最終的に卒業論文をまとめて

上げた時の達成感は、社会に出てからは経験できない貴重なものといえるでしょう。

ゼミは10年先20年先も 社会で役立つ力を養う場

社会に出れば、正解のない問題にいや

応なしに直面します。その時、どのようにして自ら答えを導き出すか。その術を学ぶことがゼミの目的です。

ゼミは小さな社会を体験する場です。培った専門知識を応用して、関心のある社会的課題を解決するプロセスを学んでいきます。その中で、深く考える「思考力」、様々な情報から正しいものを見極める「判断力」、自らの意見をまとめ伝える「表現力」という汎用的能力を身に付けていきます。

目まぐるしく変化する今、社会の常識は常に更新されています。そのような変化する社会で10年先、20年先も役立つのはゼミで獲得したこれらの力であり、知的活動を楽しむ姿勢は人生を心豊かにしてくれるでしょう。

1、2年生はこれからのゼミ活動に向けて自分が何に興味関心があるのかアンテナを張っておくことが大切です。ゼミまっただ中の3、4年生は知的体験を大いに楽しんでください。ぜひ生涯の思い出になるくらい熱中してほしいと思います。

気になるゼミナール



ゼミ選びの 流れは?

基礎の修得

1年次

レポートの書き方やプレゼンテーションの方法などゼミの基本スキルを学びます。

ゼミの準備

2年次

学習技術をさらに高めつつ、自らの興味関心を探り、学びたいゼミを選択します。

ゼミ開始

3年次

調査や討論などを通して、専門知識を深め、自己の研究テーマを探ります。

卒業研究

4年次

4年間の学びの集大成として自ら設定した研究テーマを論文としてまとめます。

※学部学科によってゼミの開始年次は異なります。



🎯 デイバートで国際私法を学ぶ

「国際私法」とは、人やモノが国を越えて行き来した時、どこの国の法律で問題を解決するかを決める法律のことです。ゼミでは、国際離婚したカップルの養育権や、企業が海外進出した際の取引トラブルなど、様々なテーマに対してディベートし、国際私法の理解や法的思考を深めます。同時に「説明・対話力」を養成しています。

説明・対話する力を養い、国際大会に挑戦！

ディベートでは、自分の意見を明確に言語化する「説明力」と、相手が求めていることを理解して答える「対話力」の養成を目指しています。曖昧なやり取りでごまかすのではなく、意見を戦わせて一つの論理を導き出す力、同じ課題に取り組む同志として相手を尊重する姿勢を身に付けてほしいと願っています。また、ここ数年は力試しの場として3つのディベート大会に参加しています。中でも、国際弁護士の登竜門といわれる国際大会「Vis Moot」では、日本大会日本語部門で2連覇を達成！この結果は、就職活動をはじめ、法科大学院進学といった将来の進路にも生きています。



法学部国際関係法学科
かまたに まふみ
釜谷 真史 准教授

釜谷ゼミ
ディベートを通して、
「国際私法とは何か」を、
学生同士で学び合う。



法学部法律学科 4年
よこやま かいと
横山 海斗さん
(宮崎大宮高等学校出身)

ゼミで学ぶほど、「法律って面白い」と実感

実は、3年生まで法律に興味を持っていませんでした。ところが、釜谷先生の授業で国際私法の面白さを知り、釜谷ゼミに入りました。ゼミでのディベートは、1人ではたどり着かない深い議論ができるのが魅力です。また、法律には人間の思想や心理が深く関わっていることを知り、もっと法律を学びたいと思うようになりました。卒業後は、法科大学院に進学し、弁護士を目指します。法律に興味なかった私が法曹への道を選ぶとは自分でも驚きます。

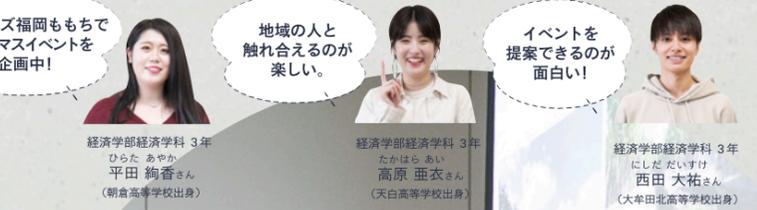
気になるゼミナール
人気のゼミを
のぞいてみよう！

学生のアイデアを
地域で実践し、
実社会の中で学ぶ。

小出ゼミ



経済学部経済学科
こいで ひであ
小出 秀雄 教授



マークイズ福岡ももちで
クリスマスイベントを
企画中！



経済学部経済学科 3年
ひらた あやか
平田 絢香さん
(朝倉高等学校出身)

地域のひとと
触れ合えるのが
楽しい。



経済学部経済学科 3年
たかはら あい
高原 亜衣さん
(天白高等学校出身)

イベントを
提案できるのが
面白い！



経済学部経済学科 3年
にしだ ゆきひろ
西田 大祐さん
(大牟田北高等学校出身)



🎯 東南アジアの現代的課題と向き合う

タイを中心に、東南アジアが現在直面する課題を、文化人類学の視点から研究を行う片山ゼミ。「グローバリゼーション」や「仏教と開発」、「ジェンダーとセクシュアリティ」といった課題に向かい、研究対象への理解を深めることで、日本や自分自身の常識にとらわれない柔軟な思考を養います。

自身の常識を塗り替え、柔軟な心を培う。

2年次から始まるゼミでは、広く東南アジアについて学び、3年次に上がると同時に私の専門分野であるタイに研究的を絞ります。3年次のゼミ研修旅行ではタイを1週間訪れ、通常の旅行ツアーでは訪問できないバンコクやカンチャナブリ、チェンマイ、チェンライなどの地域を訪ね、ゼミでの学びを体験。それまでの彼らの常識では考えられないショッキングな経験により、自ずとそれ以降のゼミに対する姿勢や眼差しがガラリと変わります。4年次の9月に南阿蘇で行うゼミ合宿では、卒論中間発表と併せて“仮装一発芸懇親会”も実施！異文化理解を深めることはもちろん、あらゆる状況、場面に対応できるしなやかな心も養ってほしいです。



国際文化学部国際文化学科 4年
あだち あかね
安立 茜音さん
(八幡高等学校出身)

フィールドワークには、旬の情報があふれている！
片山ゼミでは東南アジアでのフィールドワークを実施しています。フィールドワークの魅力は旬の情報が得られることです。例えば、発展途上のイメージがあるマレーシアですが、実際に訪れると都会的で消費意欲が高いことに驚きました。こうした発見は、書物では得られない旬の情報です。現在、私が取り組んでいるのが「東南アジア都市における商業施設内気温の比較分析」という研究です。簡単ではありませんが、調べるほどに見聞が広がる楽しさを実感しています。

🎯 座学と実践を組み合わせることによる社会人基礎力の養成

「地域活性化」「まちづくり」をテーマに、地域や企業と連携した課題解決を実践しています。ゼミの前半では、まず、地域活性化を取り上げたテキストを用いて地域が抱える課題を考察する力、課題解決に取り組む姿勢を育てます。後半は、座学で得た知識やスキルを生かし、地域や企業の課題を解決する施策を実践し、社会の中でのコミュニケーション能力を養成します。

社会の中で学び、遊びながら
コミュニケーション力を育てる。

小出ゼミの学びの特徴は、地域や企業と連携したフィールドワークです。4年前に姪浜(福岡市西区)に開設した活動拠点「Msコミュニティ」では、読まなくなった本を貸し出す図書館、1日限定のカフェや焼き氷屋などを学生主体で企画運営しています。2019年度は「西南まちづくりラボ」という団体を作り、現在8チームが活動中です。マークイズ福岡ももちとのコラボレーションをはじめ、姪浜での探題さん祭りなどチー

ムごとに企画は様々。それぞれに地域や企業との交渉を学生が行い、社会の中で「アクション・シンキング・チームワーク」を学んでいます。また、遊びながら学び、学びながら遊ぶことで地域における「自分」の存在意義を実感しています。

「ボランティア＝遠方での活動」と思っている人もいるかもしれませんが、でも実は、「身近な地域」で“すきま時間”を使ってできるボランティアがあります。「地域のために何かしたい」という意欲がある学生はぜひ小出ゼミに来てください。学部学年は問いません。自らプレイヤーとして、地域を元気にする一人として活躍してください。



経済学部経済学科 4年
でやま ゆうじろう
出山 祐次郎さん
(玉名高等学校出身)

地域交流を通して、
将来の進路が見つかった！

小出ゼミでは、SNSを使った西新・姪浜の飲食店を紹介する企画を行いました。満足のいく成果を出せませんでしたでしたが、企画を通してなじみのなかった姪浜の人たちと交流できたことは貴重な経験となりました。また、地域交流したことで「人の暮らしを支える仕事したい」という将来の進路も定まりました。現在は卒業論文に追われる毎日。駅を起点とした人の流れを調査し、福岡市にぎわいづくりについて私なりの視点でまとめたいと考えています。



片山ゼミ

”物事に絶対はない”

タイが抱える課題から
理解を深める。



国際文化学部国際文化学科
かたやま たかひろ
片山 隆裕 教授



JICA九州センター
やました ひでし
山下 英志さん

アフリカの優秀な人材を日本で育成し、さらなるパートナーシップの拡充へ。

アフリカと聞くと貧困や飢餓のイメージが強いかもしれませんが、近年はダイナミックな進化が見られます。特に、各国の首都は高層ビルが建ち、インフラも整備され、車両の増加による交通渋滞が起こるなど、都市化が急速に進んでいます。

携帯電話も世界に並ぶ水準で普及し、携帯電話を使って送金できるサービスが、世界で初めて誕生するなどイノベーションが起きています。

その一方で、教育や医療の分野では、発展に向けた課題がまだまだ残っています。

JICAでは、長年にわたりアフリカへの開発協力を行ってきました。その取り組みの一つが、アフリカの優秀な人材を日本に招き、修士課程と国内企業でのインターシップを組み合わせた人材育成プログラムです。帰国後、日本企業がアフリカに進出する際の先案内人として活躍することが期待されています。

※第7回アフリカ開発会議(TICAD7)とは
アフリカの開発をテーマとする国際会議。1993年から日本政府が主導し、国連やアフリカ連合委員会などと共同で開催している。2019年8月に横浜で開催された7回目となる今回は、民間企業が積極的に参加し、日本企業との連携拡充をテーマに議論された。

MISIAさん初の絵本「ハートのレオナ」

作:MISIA 絵:大宮エリー

ライオンの子・レオナがペリカンの友達・ムフリとアフリカ大陸を旅する冒険物語。MISIA自身のアフリカでの出会い、経験を物語に込めた、アフリカのハートが詰まった一冊。売上の一部は、MISIAと大宮エリーが理事を務める一般財団法人mudefを通して、アフリカと日本の子どもたちの支援に充てられます。



●主婦と生活社/定価1,800円(税別)

アフリカや世界から学ぶべきことはたくさんある

くの方にアフリカのことを分かりやすく伝えたくて、初めて絵本を書きました。それが「ハートのレオナ」です。この中で語られていることは、すべて私がアフリカの国々で体験したことです。たくさんの人に伝わるようにと、心を込めて書きました。私がアフリカから受け取った命のメッセージです。

学生の中には、今生きているこの場所とアフリカがつながっていることを感じられる大人になってほしいです。そのためには、世界を見て、世界の人たちと会話をし、友達になつてほしい。社会貢献活動にもぜひ参加してほしいです。自分ができる形で良いと思います。その活動を通して、自分がどういった社会を望んでいるかを考えてください。

今日の出会いが、皆さんがアフリカや世界を知るきっかけとなり、未来への素晴らしい架け橋になることを願っています。

MISIAさんへ質疑応答

Q 10年間の活動を通して見えてきた新たな課題は何ですか？

A 日本ではまだ偏見や偏った情報があると感じます。私たちの暮らしがどれだけアフリカに支えられているかを知らず、日本は支援している側、アフリカはされる側と認識している人が多い。実際、カカオやタコ、タピオカの原料のキャッサバなど多くのものがアフリカから輸入されています。自分の生活とアフリカのつながりを知ってもらおうことが今後の課題だと思っています。

Q 今後、アフリカとはどのように関わっていきたいですか？

A アフリカ6カ国を訪れ、この後ザンビア訪問を予定していますが、もっと多くの国に行きたくていろいろなことを知りたい、音楽でつながっていきたくてと思っています。困難を一緒に考えて、一緒に解決できた先にはもっと仲良くできる世界平和があると信じています。それが私の夢です。



MISIAさん

1998年に「つつみ込むように…」でデビュー。日本のみならず、アジアを代表する歌手。社会貢献活動にも積極的で、一般財団法人mudef理事として10年以上アフリカの子どもたちの教育支援に尽力。2018年に第7回アフリカ開発会議(TICAD7)※名譽大使に就任し、アフリカをテーマにした絵本「ハートのレオナ」を執筆。

「一方で、力強く生きる人々や懸命に生きる子どもたちにもたくさん出会いました。特に、教育を受けている子...」

「子どもたちにはとても希望を感じ、教育の大切さを実感しました。このことをきっかけに始めたのが、アフリカの子どもたちへの教育のサポートです。昨年、10年前にキベラスタムで出会った子どもたちと再会したのですが、彼らの立派に成長した姿には本当に感動しました。日本の大学へ留学をしている子もいました。この時、確信したのが「教育はやはり希望だったんだ」という思いです。」

イベントレポート

未来への、架け橋となる人へ。

西南学院大学のみなさんへ
from MISIA × JICA

7月26日、西南学院大学出身の歌手・MISIAさんと、アフリカで支援活動を行っている独立行政法人国際協力機構(JICA)による講演会を大学チャペルで開催しました。まず、JICA九州センターの山下英志さんがアフリカの現状とJICAの活動を紹介。そして10年以上、アフリカの子どもたちの支援を続けているMISIAさんが、アフリカでの活動や初の絵本「ハートのレオナ」に込めた思いとともに、未来をつくる西南学院大生に向けた熱いメッセージを語りました。

今

「日は、かつての学びやである西南学院大学でお話できることを大変うれしく思っています。在学中、1限目の授業の後に走ってオーディションを受けに行ったことを思い出し、懐かしく校舎を見ていました。そもそも、私が歌手を目指したのは、ソウルミュージックとの出会いがきっかけでした。ソウルミュージックのルーツは、実はアフリカにあるんですね。そのアフリカから、私は自然、文化、伝統、人の知恵や教え、豊かな心などを学びました。」



言葉に思いを乗せ、人の心に届ける。
スピーチとは、私からの手紙です。

あえて不安な環境に身を置く「認知行動療法」を自分に!

私が所属するE.S.S.は「English Speaking Society」の略で、その名の通り英語を用いた活動を行っています。現在は、全国の学生が参加する本学E.S.S.主催英語スピーチ大会「ギャロット杯争奪英語弁論大会」の本選出場に向け、スピーチ練習を週3日実施しています。この大会は、1950年に初代学長W・Mギャロット先生の名を冠して始まった、歴史ある大会です。

E.S.S.に入ったきっかけは、人前に出る緊張する自分を変えたかったから。それに加え、英語が苦手だったことも理由の一つです。苦手な環境にあえて身を置くことで、自分の不安と対峙する。これは、今、学んでいる心理学で言うところの「認知行動療法」です。おかげで、英語に対する抵抗感はなくなりました。未だに人前では緊張することもあります。英語スピーチ大会で暗誦する際は、登壇しても不思議と緊張はしません。意識の切り替えが上手になり、度胸がついたのだと思います。

スピーチはまるで手紙だから言葉選びも慎重に

私は幼い頃から手紙を書くことが好きでした。卒業式などの節目や友人が落ち込んでいる時など、日常のあらゆるタイミングで手紙を書いて渡していました。言葉によって背中を押され、救われることもある。相手が笑顔になると、私の心もスッと軽くなるのです。それは、スピーチにも通じる部分があります。

ギャロット杯では、8分間のオリジナルスピーチを発表します。これまでの大会でも、スピーチの題材は、社会問題に食文化・病気など十人十色でした。題材によつてはデリケートなものもあるため、

将来は、痛みに寄り添える心の専門家になりたい

慎重な言葉選びが必要です。実は、2年次の本選で発表した私のスピーチに対し、大会でジャッジを務める4人の先生から「表現が適切ではないのでは?」と指摘されたことがありました。大きな社会問題を扱うほど意見の差は開き、考えを発信することで非難されたり、誰かを傷つける恐れがあります。それを覚悟した上で、壇上に上がらなければいけないと気付きました。同時に、多くの方のスピーチを聞く中で、人は誰でも語るべきことを持つており、手紙と同じように、スピーチによって人の心を動かすことができることを実感しました。

現在は、今年のギャロット杯開催に向け、実行委員長として奔走する毎日です。約100校の大学に招待状を送ることや、広報活動用のポスターの制作など、業務は多岐にわたります。思い通りに進まないことも多く、運営に関わるミスが発生したこともありましたが、もともと私は、誰にも弱音を吐けない性格でした。しかし、その時は思い切つて、先輩や同期に素直に相談する



週3回のサークル活動は、スピーチ、ディスカッション、ディベートの3部門に分かれて練習。大会に出場するスピーカーは1、2年生が主体となり、渡邊さんを含む3年生は、第70回「ギャロット杯」の運営側として裏方に徹します。



と、周りの親身なサポートにより状況が一変しました。心から信頼できる人に恵まれていたことに気付かされた瞬間でした。将来の目標は心の専門家になることです。誰かの痛みに寄り添える人間になりたい。言葉の力を理解した今だからこそ、目指せる夢ができました。

西南学院大学のここがいい!

“畑違い”のことにも挑戦できる土壌があること。心理学の私がE.S.S.に所属していると畑違いだと思われそうですが、私にとって両方があるこそこの学生生活です。心理学を追求する時には、実験室や図書館を、英語力を鍛える時には言語教育センターを利用でき、自分のやりたいことをサポートしてくれる環境があります!

検定に挑戦することで、自分の成長を実感

TOEICや英語検定、心理学検定など積極的に検定を受けています。結果が全てだとは思っていませんが、モチベーション維持には非常に役立ちます。現在までに、TOEICは775点、英検準1級の1次試験合格まで到達できました!数字という手応えは、少しずつですが私の自信になってくれています。



これからトライしたいこと

西南学院大生、熱中の日々
私には、
学業に加え、スポーツやボランティアなど、さまざまな活動に熱心に打ち込む、学生の日常に密着。輝く姿の裏側にある努力と苦悩、そして熱い思いを、今ここに。



外国人労働者が増えると、私たちの暮らしはどう変わりますか？

経済学部

法学部

MY ANSWER

社会や時事問題に関する素朴な疑問に、2人の教授が答えます。それぞれの専門領域から導き出された「マイアンサー」とは？きっとあなたの知の扉を開いてくれるはずです。



法学部国際関係法学科根岸准教授の MY ANSWER

「私たちの暮らし」と「外国人労働者」の相違点、共通点を考えるきっかけが増えるでしょう。

●「私たち」と「外国人労働者」を区別するか、しないか。

「私たち」と「外国人労働者」。両者を異質と見なすか、同質と見なすか。私の専門である国際人権法の観点から、この Question の核心は「ここにあると考えます。」

両者を異質とする場合、違いはどこにあるのでしょうか。「外国人労働者」は少数派の外国人であるのに対して、「私たち」は多数派を占める日本国民であること、さらには「労働する立場」と「労働する立場」ではない、特権的な暮らしという意味も暗黙的に含み、両者は明確に区別されます。一方、「私たち」と「外国人労働者」は異なるのか、前者の「暮らし」と後者の「労働」もそれほど異なるのか。両者を区別しないという前提で Question を考えることもできます。

●人手不足を解消する AI の台頭により、労働を分け合う時代へ。

現在、少子高齢化による人口減少に伴い、人手不足が深刻な問題となつています。この解決策として、日本では外国人労働者を積極的に受け入れています。では、外国人労働者が増えることによつて私たちの暮らしがどう変わるか。これを考える時、もう一つの人手不足の解決策を無視することはできません。それは、人口知能(AI)やロボット技術の急速な発展です。

近い将来、労働のかなりの部分が AI などに代替され、人手が余ることがすでに予測されています。では、その時、社会にはどのような影響が現れるのでしょうか。人間は仕事を失つたことで収入が減り、消費行動を抑制するようになります。すると、経済は低迷し、不況の途へ。さらには AI の労働さえも不要となる、というシナリオが考えられます。

では、このような状況の中、人間に



経済学部経済学科仲澤教授の MY ANSWER

長い目で見ると、働くこと、消費することの意味と価値観がこれまでと大きく変わるでしょう。

う。まず明らかなのは、外国人は「労働」を通して私たちの暮らしを支え、経済的にも大きく貢献する存在であることです。しかし、その一方で外国人労働者の一部は過酷な労働環境に置かれ、在留資格をいつ奪われるとも知れない恐怖に怯えながら過ごしています。それはいわば、「見えない檻」に閉じ込められているといつても過言ではありません。このような状況を改善するためには、より適切な労働環境を整えられるよう、「私たちの暮らし」とは異なる脆弱な「外国人労働者」の立場に想像力を働かせることが課題といえるでしょう。

次に、両者を区別しないことを前提とすると、両者は同じ人間であるという発想を持つこと、つまり「外国人労働者」は単なる労働力ではなく、私たちと同じ地域住民の一人だと認識することが重要です。「私たちの暮らし」と「外国人労働者」という対比を強めてしまうと、日本の社会にない外国人労働者が増加し、両者を隔てる精神的・物理的な壁はさらに高くなってしまいます。その壁を低くするためには、「労働」と「暮らし」を切り離さず「一体のもの」として

消費活動を促して経済を活性化するために新しい経済システムが必要となります。それが「ベータシッキングカム」と「ワークシェアリング」です。ベータシッキングカムとは、生活に最低限必要な所得を無条件で給付するという社会政策のこと。これによりある程度の生活は保証されます。それでも不足分の所得を得るためには、少なくとも「仕事を分かち合う」「ワークシェアリング」という働き方が必要になってくるでしょう。

しかし、このような社会になるには、「汗水流してこそ労働」という日本人の労働に対する考え方が大きく変わる必要があります。もしも、日本人の労働への考え方が変わらなければ、AI によつて人手が余つて不況になる、という危険な将来が待っているといえるでしょう。

●消費でも創造性と多様性の時代へ。

では、労働の大部分が AI に代替した社会で、働くことを目的に日本へ来た外国人の方はどうすれば良い

捉え、「外国人」が「私たち」の中に溶け込める多文化共生社会を作っていくことが課題となります。先日、熱い試合を見せてくれたラグビー日本代表は、国籍にとられない形を実現した素晴らしい例といえるでしょう。

●課題に気づく力を身に付けるには自分と違う人と出会うこと。

「私たち」と「外国人労働者」を区別するか否かで、見えてくる課題は異なります。しかし、前提が違つても Answer として共通するのは、「外国人労働者」が「私たちの暮らし」に増えることで、「考えるきっかけが増える」ということです。それぞれの前提の最後に示した課題は、容易に解決できるものではありません。それでもなお、理想とする社会はどのような世界なのかを一人ひとりが考え、「課題」に気付くことが重要です。

そのためには、自分と違う人々とどんどん出会うことが大切です。他学部の人や外国人留学生と積極的に交流してください。その中で気付く力が鍛えられるはずです。

また、これまで労働に充てていた時間も消費活動に充てられるようになります。消費活動も「短時間」から、ゆとりある時間を楽しみながら消費する「時間消費型」に変わっていくでしょう。そして、そこに外国人の方も一緒に豊かな時間を過ごす。例えば、異文化を取り入れた参加型フェスであったり、様々な国の芋料理を楽しむ芋煮会だったり。異文化の方とのクリエイティブな消費活動が人生を豊かにすることでしょう。

こう考えると、先述の「労働」だけでなく、「消費活動」に対する考え方も変えていけるかがポイントとなるでしょう。

経済学部経済学科

なかざわ こうじゅ

仲澤 幸壽 教授

東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。研究分野は「行動経済学」「理論経済学」。

法学部国際関係法学科

ねがし ようた

根岸 陽太 准教授

早稲田大学大学院法学博士課程修了。専門として国際法、国際人権法(憲法)、国際法理論(法哲学)を研究。

Talk about global.

あるテーマについて先生と日本人学生、そして留学生がテーブルを囲む鼎談。
世代や立場、背景が異なる視点から、新しい発見が見えてくる。

第3回
テーマ

ボランティア活動を通して見えたもの

感動や喜び、そして自信 逆にパワーをもらえる好循環

- 寺田 私は大学入学後、新しいことに挑戦したいと思い、ボランティア活動を始めました。海外に興味があったことがきっかけでしたが、“語学習得のため”ではなく、その国や地域でしかできない経験に興味がありました。
- ミラクル 私は幼い頃から、母国アメリカで家族と一緒にボランティア活動を続けています。アメリカはボランティア活動が盛んなこともあり、私にとっては日常生活の一部。日本とは少し捉え方が違うかもしれません。
- 石森 “活動”ではありませんが、私が約30年前に訪れたドイツでは、高齢の方がバスを降りる際、誰かがサッと手を差し出すシーンはごく当たり前の風景でした。困っている人に余裕のある人が手を貸す、この感覚が自然と身に付いているのでしょうか。寺田さんは、海外での活動で何か印象に残っていることはありますか？
- 寺田 1年次の春休みにボランティア活動でカンボジアに行った際、子供たちに日本語を教えていると「もっと教えて！」と、目を輝かせて勉強してくれたことを覚えています。教育環境が整っていない中

でも、学ぶことを諦めない姿を見て自然と胸が熱くなりました。誰かの力になるはずが、逆にパワーをもらいましたね。

- ミラクル 現在、ホームレスの方のために料理を作り、一緒に食事をする活動に参加していますが、以前は人見知りだった私も、相手の笑顔や感謝の言葉で徐々にうまくコミュニケーションが取れるように。自然と行動や発言にも自信ができました。

参加者の思いが一つに 自然と生まれる絆や結束

- 寺田 これまで、熊本地震や九州北部豪雨の復興支援など様々な活動に参加しました。改めて年齢や立場に関係なく、同じ目標に向かって誰かのために頑張れる、ボランティアならではの結束力の素晴らしさを感じました。
- ミラクル 私の家族はどんなに忙しくても、ボランティア活動をする時は自然と集まります。“困っている人の手助けがしたい”という思いが前提ですが、私にとっては家族との絆が深まる時間でもあります。
- 石森 参加者同士の絆や交流もかけがえないものですね。本学は歴代、1年次から4年次までボランティア活動を継続する学生が大勢います。下級生が上



級生の姿を見て…と、思いやりのパトナリレーが続いていることが嬉しいです。

誰かの役に立つ喜びは さらなる成長を生む

- 寺田 今は、災害が起きてから行動するのではなく、日々の生活で困っている人がいたらすぐに手を差し伸べられる精神と行動力を身に付けたいと思っています。それはきっと、社会人になっても生きるはずです。
- ミラクル 私は近い将来、日本語を子供たちに教えるボランティアに参加したいと思っています。たくさんの人に今までお世話になった分、恩返しできたらと考えています。
- 石森 私個人の意見としては、大学におけるボランティア活動とは“やさしい人を育てる”ことだと思っています。それは、自分の持つ力で人の役に立ち、それを喜びに変えられる人です。2人がこの経験を、社会で大いに生かせる日が今から待ち遠しいですね。



多くの学びを与えてくれるボランティアもこれからはもっと続けたいです。

ボランティア活動は、人との絆を再確認する時間。

まずは、自分の経験のためのボランティア。それも大きな挑戦です。

法学部法律学科 4年
寺田 光大さん
(福岡高等学校出身)

留学生別科
ミラクル・レイチェルさん
ミドルテネシー州立大学
(アメリカ合衆国) 在学中

ボランティアセンター長
副学長(総務担当)
いしもり ひさひろ
石森 久広教授
(法科大学院)

SEINAN

教育支援プログラム

Before⇒After 一步前へ。

西南学院大学の教育支援プログラムを通じて、新しい自分を見つけた学生の物語をbefore・afterで紹介しします。

プログラム名

戦争をフィールドワークする(中国研修)

国際文化学部国際文化学科 3年 うめだ みゆう 梅田 美佑さん (慶道高等学校出身)

偏見を捨て、多角的に物事を見る。
そのためには、
自ら学び、考えることが大切。

事前学習で芽生えた自分なりの見解が、 戦争の歴史を深く考えるきっかけに。

大学入学以来、アジアやヨーロッパに旅をして、様々な異文化に触れてきました。でも、単なる旅ではなく、目的を持って異文化を体験したいと思い、「南京大虐殺」をテーマにした中国班の研修に参加しました。

事前学習では、南京大虐殺の知識を得るため、様々な書籍を読んだのですが、驚くことに事件の発端や被害者数など情報はまちまち。南京大虐殺は存在しなかったと語る文献もありました。何が正解なのか。自分なりに考えながら情報を取捨選択する中、私の中でいくつかの見解が生まれました。その見解を持って歴史の現場を訪れたことで、様々な気づきを得ることができました。

中でも、南京大虐殺の資料を展示する施設では、日本では語られていなかった情報に触れ、戦争の歴史を正しく捉える難しさを感じました。同時に、歴史の理解には偏見や思い込みを取り払い、多角的な視点が必要であることを学びました。きっと受け売りの知識だけで訪れていたら、この気づきは得られなかったと思います。

他人の意見に頼らず、 自分で考えた意見に責任を持ちたい。

今回の研修では、事後学習として参加者8人が感想や意見を発表する場が帰国後に設けられました。同じものを見て、同じ時間を過ごしても、それぞれ異なった感じ方がある。これもまた異文化交流の一つと感じ、自分以外の意見を受け入れる心や視野を広く持つことの大切さを改めて感じました。

また、以前は誰かの意見に賛同し、それで良しとしていたことが多かったのですが、帰国後は知識を踏まえた上で自分の意見を持つことを意識し、自分の意見に責任を持ちたいと考えるようになりました。唯一の心残りは、第二外国語で勉強していた中国語を試せなかったことです。次回、中国を訪れた時はコミュニケーションができるよう、今後はさらに中国語の勉強を頑張りたいと思います。

「戦争をフィールドワークする」とは

世界に残る戦争跡地を訪ね、 平和の大切さを学ぶ。

2018年、国際文化学部の教育プログラム「戦争をフィールドワークする」を実施しました。中国、東南アジア(タイ)、ヨーロッパ(ポーランド、ドイツ)の班に分かれ、第2次世界大戦の跡地を訪問。グループでフィールドワークなどを通して、平和の大切さを学びました。



教育支援 プログラムの 流れ

教職員が学生を“育てる”新規プログラムを企画し学内審査を受けます。採択されたらプログラムの開始です。

各プログラムにおいて参加者募集が行われ、学生は自主的に申し込みをします。

各プログラムにおいて、取組みが実施されます。研究旅行/勉強会/ボランティア/インターンシップ/イベント運営など

それぞれのプログラム参加後は、レポートの作成や報告会の開催を行います。

プログラムに参加することにより、学生は多様な能力を身に付け成長します。

知の原点

教授が日々研究している専門分野との出会いは何か。研究の原点を探り、教授の学生時代の思い出とともに研究への思いをご紹介します。

vol.3

文学部外国語学科フランス語専攻
たけまつ ゆうこ
武末 祐子教授

西南学院大学文学部卒業。グルノーブル第3大学大学院フランス文学博士課程修了。パリ第四ソルボンヌ大学フランス文学DEA取得。専門は19世紀のフランス文学。研究テーマは文学・芸術におけるグロテスク美学。

研究の原点

何気なく研究し始めた「グロテスク美学」。わからない悔しさがさらなる研究の道へ。

「語学が好き」という理由で西南学院大学に進学しました。大学生の頃は、周りの優秀な学生を横目に生来の真面目気質により勉強していた記憶があります。

大学卒業後は就職も考えていましたが、大学院を受験したところ合格し、開かれた道を選びました。そこで教授に薦められた研究テーマが「フロバール文学におけるグロテスク」でした。グロテスクとは何か。どんなに調べても納得できる理解に至らず、研究者に向いてないと思ったこともありましたが、その悔しさが間違いなく私の原動力でした。もしも、あの時に諦めていたら、「グロテスク」という言葉の面白さも学ぶ喜びも知らないままだったと思います。

フランス留学中に訪れたイタリア・ヴェネツィアにて。



文学と美術。 2つの領域に現れる

「グロテスク」を探る。

現在の研究

私 は、「グロテスク」という言葉をフランス文学とヨーロッパ美術の二つの領域から紐解き、その意味と使い方がどのように変容してきたかを追求しています。

現在、グロテスクという言葉は「異様、気味が悪い」という意味で使われますが、19世紀のフランス文学では「怖くて滑稽」「恐怖と笑いの混在」という概念で撞着的な定義でした。研究を始めた頃の私は、この定義がどうしても腑に落ちず、調べれば調べるほど謎でしかなく、この研究に面白みを見いだせずにはいきました。

そこで、違うアプローチを試してみようと探ったのが、グロテスクの起源です。元々、グロテスクは古代ローマのネロ帝の宮殿壁画に由来し、「洞窟」を表すイタリア語「grotta」が語源でした。16世紀には人間や動植物などをあしらった華麗な、装飾文様を「グロテスク」と呼び、建築や美術の用語として使っていました。しかし、グロテスクを包括する装飾

用語「アラベスク」が優勢になると、グロテスクという言葉は建築美術から姿を消しました。一方、文学ではすっかり浸透し、形の歪みから生じる怖さと滑稽さが融合することなく共存したグロテスクの世界観が19世紀のフランス文学で大流行したのでした。

文学と美術。同じ言葉でも意味や使い方、変化の流れが違う。このズレを発見した時、初めてこの研究を心から面白く感じる事ができました。同時に、文学の領域だけでは理解できなかったことが、美術の領域から見ることによって、納得のいく理解を得られたのです。この時の感動は今も忘れません。

パズルのワンピースがカチッとハマった時、そこには必ず面白さがあります。本当に理解できたことは、人の言葉を借りずとも自分の言葉で語ることができ、自分の軸や価値観を作る土台となるはずなんです。大事なものは「わからない」を推進力に変換することで、理解できた時の感動を体感し、自分の言葉で語る強さを身に付けてほしいと願っています。

interview with OB・OG

こんにちは先輩 #172

福岡市立西新小学校
校長

みなみしょう がく よし や
南正覚 禎哉さん

1989年文学部児童教育学科(現人間科学部児童教育学科)卒業。鹿児島県立出水高等学校出身。大学卒業後、小学校教員として鹿児島県内の小学校に16年間勤務。その後、福岡市立小学校教員に採用され福岡へ。福岡市内の小学校5校で教員経験を重ね、2019年4月から西新小学校校長に就任。

教師への夢、ラグビーに情熱を注いだ学生時代。

私が小学校教諭を目指して文学部児童教育学科に入学したのは、小学校教諭免許課程が設置された1985年でした。先輩がいなかったため、同じ夢を持つ同期は心強い存在でした。教員採用試験前は、毎日

になつていきます。「継続して努力したこと、全力で取り組んだことは必ず自分の力になる」。教師を続ける上で大切にしていることであり、子どもたちにも伝え続けているメッセージです。

全力を尽くしてこそ、「好き」がみつかる。

教職について30年以上経ちますが、今も昔も幸せを感じる瞬間は、子どもたちの成長が見られた時です。目の前のことに一生懸命に取り組む、「できたー」と喜ぶ子どもの笑顔は何ものにも代え難く、教師という職業の素晴らしさを実感します。

現在は校長という責任ある立場ゆえ、これまで以上に難しい判断を迫られることがあります。子どもにとって最良の判断は何か。一人ひとりに寄り添った最良の答えを導けるよう、今も時間があれば教室へ行き、子どもたちと交流することを大切にしています。



校長就任以来、子どもたちの成長について書き留めたノートは既に4冊目に。



好きな仕事を通して人間として成長できる。これほど幸せなことはありません。先輩の皆さんにも、「この仕事ができるって幸せだ」と思える仕事に巡り合ってほしいと願っています。そのためにも、何事にも全力で取り組むことです。要領良くこなすことを優先すると、「好き」を感じるチャンスが逃がしてしまいます。ぜひ「若さ」という最大の魅力を生かし、「やってみよう」という衝動で行動してみてください。それが「好き」を仕事にするきっかけには必ずです。

努力したこと、 全力で取り組んだことは 必ず自分の力になる。

STORY

小学校の頃に見たテレビドラマがきっかけで教師を目指したという南正覚禎哉さん。文学部児童教育学科(現人間科学部児童教育学科)に入学後、同じ夢を持つ仲間と勉学に切磋琢磨する一方、ラグビー部で厳しい練習に明け暮れる日々を過ごしたことで、「何事にも全力」という姿勢を学生時代に培ったといいます。教師の夢を叶え、好きな仕事に情熱を注いできた南正覚さんに、これから社会に羽ばたく後輩たちへのメッセージを語っていただきました。



お互いに勉強を教え合い、苦手なピアノの練習に夜遅くまで付き合ってもらったこともありました。今、私が教師の道を歩むことができているのは、同期の励ましがあつたおかげです。教員の夢と並行して情熱を注いできたのがラグビーです。とにかく練習が厳しかった。でも、そんな辛い練習をくじけずやり切った経験が今の私の自信

感謝

私の座右の銘

「試合に勝つことができたのは、試合に出ていない部員の支えがあったから」。大学2年次の時、ラグビー部のキャプテンからもらった言葉です。今の私があるのも、家族や同僚の支えのおかげです。感謝の気持ちを持つことで、目の前の悩みを小さなものだと思うことができます。

教授の
ヨノナカ考

TOKYO 2020
パラリンピックのレガシー

社会で起こっている
さまざまな事象を
先生方が独自の
視点で語ります。

人間科学部社会福祉学科
准教授
田原 亮二
東京芸芸大学大学院 連合学校教育
学研究所修士(博士(教育学))、福
岡大学スポーツ科学部、名桜大学
人間健康学部で教鞭を執り、本年
度から本学人間科学部に着任。専
門はバイオメカニクスと大学体育。
各種スポーツの動作分析や大学に
おける体育の授業研究をしている。

TOKYO 2020 オリン
ピックパラリンピックの開幕まで、
あと半年ほどとなってきました。
開催の準備段階では、各種
目の競技場建設に際して「レガ
シー」という言葉を耳にしたかと
思います。この言葉は、2002
年にオリンピック憲章に加筆さ
れ、大会開催によってもたらされ
る「社会的遺産」という概念を示
しており、文化、経済、精神的な
意味合いも内包されています。



開幕に向けて各種メディアで報
じられる回数も増えてきており、
特にパラリンピックに関してはかっ
てないほど視聴機会が増えていま
す。また、障がい者スポーツへの参
加者や指導員も増加しています。
これらの現象は大会組織委員会
の掲げるレガシーの波及効果と言
えるでしょう。しかし、これらの背
景には多くの財源が投入されてい
る事実があることも見逃せませ
ん。パラリンピックの認知度は90%
を超えるまでになったものの、観
戦経験者は5%未満であるとも言
われています。また、障がい者ス
ポーツへの参加率も様々なバリア
によって依然として低調なまま
です。TOKYO 2020 パラリ
ンピックのレガシーが、障がい者ス
ポーツへ関わる人が増え続けるこ
とであって欲しいと思います。

NEWS

2020年4月に3つの学生寮が「国際寮」に生まれ変わります

2020年4月、3つの寮が「日本人学生・留学生混住型国際教育寮(インターナショナルハウス I、II、III)」として新たに生まれ変わります。

西南学院大学では、世界31ヵ国88の大学から留学生を受け入れており、新たな国際寮では、日本人学生と、様々な国籍・文化を持つ留学生がともに生活をします。その共同生活は、まさに「留学」そのものです。国際寮に入寮する学生には、留学生との生活を通して、語学力の向上はもちろんのこと、異文化理解を深め、将来的に国際社会で活躍する人物として大きく成長することを期待しています。

3つの寮のリニューアルオープンに先駆け、2019年10月に、国際寮のホームページを開設しました。今後、国際寮に係る最新情報を随時発信します。



インターナショナルハウス II (MINATO)



詳細は、国際寮ホームページをご参照ください。
<http://www.seinan-gu.ac.jp/campuslife/campuslife/dormitory.html>

NEWS

経済学部主催 古川亨氏による講演会を開催しました



9月26日、西南コミュニティーセンターホールにて、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授の古川亨(ふるかわ・すすむ)氏を講師にお招きし、「今の若者に期待すること」という演題で講演会を開催しました。この講演会は、「国際キャリア演習」という経済学部専攻科目の授業の一環として行われたもの

で、学生約100人が聴講しました。

古川氏はマイクロソフト・ジャパン社長を務めた後、マイクロソフト本社の副社長としてビル・ゲイツの右腕として活躍された輝かしい経歴の持ち主です。講演では、古川氏の学生時代からマイクロソフト本社副社長時代に至るまでの経験、ビル・ゲイツ氏との交流、動画を用いた最新技術の動向について興味深いお話をいただきました。また、ご自身の体験をもとに技術が進歩する将来の社会を見据えつつ、会場の学生に次世代を担ってほしいとエールを送りました。

後半は、本学OBで、EnLinx Partners 代表、経済学部非常勤講師として「国際キャリア演習」を担当している尾中泰(おなか・ひろし)氏の司会のもと、パネルディスカッションを行い



ました。古川氏、立石剛副学長(教育・研究担当)、竹崎岳人さん(経・経4年)と古川奏さん(経・経2年)が登場し、今後の大学教育に関する重要性などについて議論を深めました。「国際キャリア演習」の履修生で、研修先の米国シアトルから帰国したばかりの竹崎さんと古川さんは、研修での貴重な経験についても報告しました。

NEWS

2019年度前期卒業証書・学位記授与式を挙りました

9月25日、大学チャペルにて2019年度前期卒業証書・学位記授与式が行われ、89人が慣れ親しんだ学び舎を巣立ちました。

式では、金丸英子宗教部長の聖書朗読・祈祷の後、各学部の代表者にそれぞれの学部長から卒業証書が手渡されました。その後、G.W.パークレー学長が、「これから、自分が置かれている場所で平和を作り出す人として活躍してほしい。人間関係が複雑さを増す時代において、困難な状況の中でも希望を持ち続ける人になってください」と告辞を述べ、卒業生はそれぞれの進路に向かって、新たな一歩を踏み出しました。



NEWS

第14回ホームカミングデーを開催しました



9月28日、第14回ホームカミングデーを開催し、約220人の卒業生が母校を訪れました。

ホームカミングデーは、卒業後10年、20年、30年、40年、50年、60年の皆さんをキャンパスにお迎えし、母校で親睦と交流を深めていただくことを目的に開催しているものです。

大学チャペルで行われた式典で

は、G.W.パークレー学長、蒲原由和大学同窓会専務理事の挨拶や人間科学部心理学科の花田利郎教授による講演が行われました。講演は「人間関係のコリほぐし」というテーマで行われ、日常生活から生じるストレスの発生の要因を説明するとともに、実際のストレス解消法を参加者全員で実践しました。式典の最後には応援指導部応援団が登壇、参加者全員で校歌を歌い、卒業生に向けてエールを送りました。



式典でエールを送る応援指導部応援団

西南学院百年館(松緑館)に場所を移して開催された懇親会では、卒業生を代表して、木本太さん(69期)の挨拶、下村武俊さん(59期)の乾杯にて懇談が始まり、抽選会やチアリーダーによる演技も行われ盛会となりました。参加者からは「50年ぶりに西南学院大学に来ました。懐かしく、昔を思い出すことができました」「学部やゼミの仲間と再会できて充実した一日でした」などの感想が寄せられました。

来年度は、60期、70期、80期、90期、00期、10期の方々を対象にご案内をさせていただきます。

NEWS

「FEEL SEINAN!」を開催しました

大学生と高校生の交流プログラム「FEEL SEINAN!」が、10月5日に本学で初めて開催され、高校1・2年生、保護者など、110人が来場しました。

「FEEL SEINAN!」は、西南学院大学の大学生と高校生や保護者の皆さんが、オープンキャンパスよりもさらに近い距離で触れ合いながら、西南学院大学について知ってもらいます。当日は、学生広報団体LUSHを中心とした学生たちが、参加者に向けて、大学紹介やキャンパスツアー、受験勉強の体験談やキャンパスライフについて語る在学生講演会などを行いました。

参加者からは、西南学院大学をより身近に魅力的に感じられたなどの意見が寄せられました。



NEWS

2019年 西南学院のクリスマス

大学クリスマスツリー・ディスプレイ点灯式

日時 2019年11月29日(金)18時～

場所 大学チャペル前広場

大学チャペル前のシンボルツリーが白銀にライトアップされ、クリスマスを迎える準備がはじまります。12月26日まで点灯。



大学キャンドルサービス

日時 2019年12月24日(火)10時35分～11時10分

場所 大学チャペル

キャンドルの明かりに包まれた幻想的な雰囲気の中で行われるクリスマス礼拝。クリスマスメッセージのほか、チャペルクワイアの合唱、ハンドベルクワイアの演奏などがあります。キャンドルの明かりの中、こころ静かに祈りの時を持ちましょう。



西南学院教職員クリスマス ※関係者限定

日時 2019年12月11日(水)17時50分～

場所 大学チャペル

教職員がチャペルに集い、クリスマスを祝います。クリスマス献金も行われます。



西南学院コミュニティークリスマス

日時 2019年12月20日(金)18時30分～

場所 西南学院中学校・高等学校チャペル

一般市民の方と祝う西南学院のクリスマスです。日本基督教団東美教会牧師でシンガーソングライターの陣内大蔵(じんのうち・たいぞう)さんの歌とメッセージで、市民の皆様と共にクリスマスを祝います。



入場無料

NEWS

西南学院大学から法曹界へ ～「司法試験」に合格しました～

2019年の司法試験において、本学法科大学院から、高尾侍志(たかお・ひとし)さんが合格しました。難関を突破した高尾さん、おめでとうございます。



たかお ひとし
高尾 侍志さん

出身高校
長崎県立長崎北陽台高等学校
出身大学
西南学院大学法学部法律学科

法曹としての将来の目標

依頼者の気持ちに寄り添い、親しみやすく、安心して任せてもらえる弁護士になりたいです。

法曹として大切にしたいこと、法曹となるうえでのポリシー

依頼者との信頼関係を大切にしたいです。また、困っている人を助けたいという初心を忘れることなく、依頼者のために何ができるかを考え、すべての事件に対し、全力を尽くす弁護士でありたいです。

司法試験を目指す人へのメッセージ

司法試験は、正しい方法で勉強すれば必ず合格できる試験だと思います。基礎を疎かにすることなく、最後まであきらめずに頑張ってください。

NEWS

準硬式野球部が文部科学大臣杯 第71回全日本大学 準硬式野球選手権大会で健闘!

第71回全日本大学準硬式野球九州選手権大会において、熊本学園大学との3位決定戦に勝利し、6年ぶり(20回目)に全国大会出場を決めた本学準硬式野球部が、8月21日から愛知県名古屋市ほかで行われた文部科学大臣杯第71回全日本大学準硬式野球選手権大会に出場しました。

トーナメント2回戦からの出場となる本学は、大阪経済大学(関西選手権大会優勝校)と対戦。先発投手の姫野隆輝(商・経営4年、福工大城東高)がランナーを出すも粘り強いピッチングを続けて延長10回を完投し、打線も主将の陣内賢利(経・経4年、柏陵高)のツーランホームランで一時3点差をつけるなど奮闘しましたが、10回裏に1点を奪われ3対4で勝利を収めることができませんでした。

残念ながら目標とする「全国制覇」を成し遂げることができませんでしたが、この悔しさを胸に、今後の活躍に期待したいと思います。

今後も、準硬式野球部への応援をよろしくお願いたします!



6回表、ツーランホームランを放った主将の陣内(経・経4年、柏陵高)



熱田愛知時計120スタジアム(熱田神宮公園野球場)にて試合終了後の集合写真

NEWS

外国語学部就任予定者 ユスチナ・カシャ先生が 文学部の学生と交流しました

2020年4月から、外国語学部准教授として就任予定のユスチナ・カシャ先生が来学しました。

カシャ先生の専門はグローバル化における現代日本文学と比較文学で、遠藤周作や日本の様々な作家の小説の研究を行っています。また、日本語、英語、ポーランド語、フランス語の4カ国語を話すこともあり、今回の来学では文学部外国語学科の授業にゲストスピーカーとして参加しました。

その他、言語教育センターでのマルチリンガルカフェへの参加や、学生との昼食会などを通じて、多くの学生と交流しました。



NEWS

2019年度西南学院大学奨学金(後期) 交付式を開催しました

10月24日、西南コミュニティーセンターにて、2019年度西南学院大学奨学金(後期)交付式が行われ、23人の学生に大学給付奨学金を交付しました。

交付式では、G.W.パークレー学長が式辞を述べ、代表者へ学長から給付証が手渡されました。その後、宮原哲学生部長が「奨学金の趣旨を十分に理解し、皆さん一人ひとりが西南学院大学の代表であるという意識を持って行動してください。奨学金が皆さんの残りの学生生活のために有意義に使用されることを願います」と祝辞を述べ、学生たちが勉学に励み、将来、社会に還元することに期待を示しました。

奨学金が皆さんの自信と将来の糧になることを期待しています。



28日(土) 冬季休暇開始(大学院)

Calendar 2019-2020 Winter

- 2019 12 December**
- 9日(月) 補講期間(水曜日を除く6限目に実施)(~13日(金))
 - 25日(水) キリスト降誕祭(全学休講)
 - 27日(金) 授業終了(学部・大学院・法科大学院)
 - 28日(土) 冬季休暇開始(大学院)
 - 30日(月) 冬季休暇開始(学部・法科大学院)
- 2020 1 January**
- 3日(金) 冬季休暇終了(学部・法科大学院)
 - 4日(土) 冬季休暇終了(大学院)
 - 6日(月) 授業再開(学部・大学院・法科大学院)
 - 10日(金) 卒業及び修了論文提出締切(午後4時・学部)
 - 17日(金) 大学入試センター試験準備(全学休講)
 - 20日(月) 修士論文提出締切(午後4時・大学院)
 - 22日(水) 後期授業終了(学部・法科大学院) 月~金曜日の後期授業終了(大学院)
 - 23日(木) 後期試験(~1月31日(金)) / 予備日2日を含む・学部) 後期試験(~2月3日(月))・法科大学院)
- 2 February**
- 1日(土) 土曜日の後期授業終了(大学院)
 - 5日(水) 一般入試(神学部・外国語学部・法学部)
 - 6日(木) 一般入試(商学部・人間科学部)
 - 7日(金) 一般入試(経済学部・国際文化学部)
 - 8日(土) 一般入試(全学部)
 - 中旬 学位論文審査及び最終試験(大学院)
 - 21日(金) 一般入試、英語4技能利用型一般入試、一般・センター併用型入試、大学入試センター試験利用入試(前期)合格発表 2020年度大学院春期入学試験(博士後期課程)
 - 22日(土) 2020年度大学院春期入学試験(博士前期課程、修士課程)
- 3 March**
- 12日(木) 大学入試センター試験利用入試(後期)合格発表
 - 19日(木) 卒業式・学位記授与式

INFORMATION

高校1・2年生対象「Seinan English Camp for Global Leadership 2020」の開催について

2020年3月28日(土)~29日(日)、高校生を対象としたグローバル人材育成プログラム「Seinan English Camp for Global Leadership 2020」を実施いたします。このプログラムは、将来グローバルな舞台で活躍したいと考えている高校生を対象とした1泊2日の宿泊型留学体験プログラムで、プログラムはすべて英語で行われます(日本語の使用は原則禁止)。

「英語を使って将来世界で活躍するための能力」を育成することに主眼を置いた研修で、英語力と同時に様々な能力を育成します。

開催日程 2020年3月28日(土)~3月29日(日)

会場 西南学院大学(宿泊場所:合宿研修所)

対象 高校1・2年生

参加費 無料

※自宅から西南学院大学までの交通費及び2回の昼食代は各自負担

申込締切 2019年12月2日(月)

申込方法 下記のURLをご参照ください。

<http://www.seinan-gu.ac.jp/admissions/information/seinan-english-camp.html>

【お問い合わせ】

入試課 TEL:092-823-3366 FAX:092-823-3388

INFORMATION

新規国際交流協定校(マルタ、モロッコ)のご案内

本学では海外の大学と国際交流協定を締結し、半年間または1年間の学生交換や短期語学研修を実施していますが、新たに以下の大学が協定校になりました。これにより、本学の国際交流協定校は、33カ国101大学(学生交換協定のある大学は31カ国88大学)となりました。



マルタ共和国

マルタ・アメリカン大学

URL <https://aum.edu.mt/>



モロッコ王国

ラバト国際大学

URL <https://www.uir.ac.ma/>

詳細情報は各大学のホームページまたは国際センター事務室の資料をご参照ください。

【お問い合わせ】 国際センター事務室 TEL:092-823-3346



名誉教授・元文学部教授
あんたく のりみつ
安徳 典光 氏

本学名誉教授の安徳典光氏が2019年9月25日、逝去されました。90歳。専門は文法・語法、英語表現法。神の平安をお祈りいたします。



名誉教授・元法学部教授
エヴゲーニイ B. コヴリーギン 氏

本学名誉教授のエヴゲーニイ B. コヴリーギン氏が2019年9月30日(ロシア時間)、逝去されました。72歳。専門は国際政治経済論、太平洋における経済関係、20世紀以後のロシア史。神の平安をお祈りいたします。

INFORMATION

2019年度西南学院大学博物館特別展のご案内

西南学院大学博物館では、特別展Ⅱ「聖母の美—諸教会におけるマリア神学とその芸術的展開—」を開催しています。

聖母マリアは、キリスト教世界においてとりわけ親しまれ、崇敬されてきた存在の一つです。キリスト教は、その長い歴史の中で、聖母を主題とした数多くの芸術作品を生み出してきました。それらの芸術作品は、時代や地域によって異なる多様性を示す一方で、聖母にまつわる神学、すなわちマリア神学(Mariology)を共通の土台としています。

本展覧会では、聖母マリアを主題とするさまざまな芸術を、神学思想と共に辿っていくことで、聖母の美の多様性と普遍性に迫ります。皆さんのご来場をお待ちしています。

聖母の美

諸教会におけるマリア神学とその芸術的展開

開催期間 2019年11月1日(金)~2020年1月25日(土)
開館: 10時~18時(入館は17時30分まで)
休館: 日曜日、12月16日(月)、25日(水)、12月28日(土)~1月5日(日)

会場 西南学院大学博物館
1階常設展示室・特別展示室、2階講堂

主催: 西南学院大学博物館 後援: 福岡県、福岡市、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団 協力: 聖カタリナ大学、福岡女学院大学図書館、九州産業大学図書館

【お問い合わせ】
西南学院大学博物館 TEL:092-823-4785

入館料 無料



INFORMATION

本学教授の新著紹介

一般読者向けに語られた講演本



『母子関係からみる子どもの精神医学—関係をみることで臨床はどう変わるか』

小林 隆児 / 著 人間科学部社会福祉学科教授
●2019年 遠見書房 本体2,200円+税 194頁

乳児期のアタッチメント形成の重要性が叫ばれるようになった。単に虐待問題のみならず、いかなるころの病にもそれが深く関わることが科学的に証明される時代になったからである。乳児期に母子間で情動(気持ち)が響き合う関係の成立が右脳の成熟と深く関連していることから、子どもを母子「関係」の中で理解していくことが必須の時代となった。四半世紀子どもを関係の相で観察し治療してきた著者による講演記録で、わかりやすくユーモアたっぷりの1冊である。

OB・OGの新著紹介

日本・中国での公演活動と、出会いを綴った半生記



『忘れえぬ人たち—「残留婦人」との出会いから—』

神田 さち子 / 著 1966年 文学部英文学科卒業
●2019年 日本備前社 本体1,800円+税 164頁

1996年、一時帰国した残留婦人と呼ばれる人達との出会いが、著者の舞台人生の始まり、原点である。「どうか私たちのような者が中国に沢山いることを忘れないで下さい」。その悲痛な叫びが、著者の心を揺さぶって以来23年、哈爾濱、長春、大連、北京、安徽省合肥と微妙な日中関係をも乗り越え9回の公演を果たす。国内はもとより、訪中先々での珠玉の出会いを綴り山田洋次監督からも「神田さち子さんが生涯をかけた作品」と称された著者渾身の書である。

児教卒業生も踏ん張る夜間保育の現場



『真夜中の陽だまり—ルポ・夜間保育園—』

三宅 玲子 / 著 1990年 文学部国際文化学科(現・国際文化学部国際文化学科)卒業
●2019年 文芸春秋社 本体1,500円+税 232頁

キャナルシティ博多の巨大な壁面にくっつくように建つ夜間保育園。昭和48年、中洲のホステスを支える夜間託児所が始まりました。そこへ、かつて子育てと仕事に悩んだ著者が東京から3年通いつめた。「親を支える」を運営理念に掲げる型破りな保育園に支えられて奮闘する親や見守る博多の人々を通して描き出したのは「人を認めるとは」、現場で背骨のように貫かれる親の人生を認める姿勢は、子育てが難しい現代、全ての親が求める社会の防波堤であると結論づけた。なお、重要な役割として登場する主任保育士は2003年児童教育学科卒業。

西南学院大学公式 Facebook、Twitter、YouTube!

- Facebook
- Twitter
- YouTube



皆さまからの「いいね!」をお待ちしております!

Facebook <https://www.facebook.com/seinan.gu/>
Twitter https://twitter.com/seinan_gu
YouTube <https://www.youtube.com/channel/UCo0MQ5bOFNXqI6cDjop6NfA>

西南学院Letterを創刊しました!

西南学院のNEWSやイベント情報などをお届けすることを目的に、メルマガ『西南学院Letter』を創刊いたしました。およそ2週間に一度の頻度でお届けいたします。



ぜひご登録ください!

決断

My Turning Point

「決断」から学ぶ、働くことへのヒント
人生は選択の連続。社会で活躍する先輩たちの「決断」から学ぶ、働くことへのヒント

第3回

深田 優さん

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
マーケティング統括部
カテゴリーマネージメント企画部



データ分析とアイデアを駆使し

日本の飲料市場をデザインする



profile

2014年 経済学部経済学科 卒業
春日高等学校出身。在学中はバドミントンサークルに所属するほか、友人との国内外の旅行など活動的な日々を送る。入社1年目の広島勤務を経て、2年目より現所属。営業社員のサポート役として、データ分析を通して飲料部門の課題解決に取り組む。

データ分析を通し、お客さまの売上拡大を目指す

コンビニやスーパーに必ずある飲料売場には、様々なメーカーの飲料が多く並んでいますが、実は並びや配置順、商品の量や種類は市場調査などを元に綿密に計画しています。これを棚割(たなわり)といいます。

私が所属するカテゴリーマネージメント企画部では、お得意さま(小売店)の飲料部門の売上拡大を目指し、自社製品に加え、競合他社の商品を合わせた飲料全体の売場作りを行います。このような売場作りを担当するポジションを棚割主幹と呼びます。わが社が棚割主幹になった際は、店舗の販売実績データをもとに、九州の市場データと比較分析して、お得意さまの課題や解決策を提案します。さらには、トレンドに合わせて自社のミルクティーと小売店で扱うタピオカを並べて陳列することや、自社製品を使ったレシピの実演販売を行うなどと、企画力も問われます。アイデアが形になる面白さがこの仕事の醍醐味ですが、売上という形で数字に表れるため、成功も失敗も明らかになります。しかし、それが仕事のモチベーションでもあります。



左:コカ・コーラボトラーズジャパンが販売エリアとする地域はコカ・コーラカラーに。中:資料作りも重要な任務の一つ。右:仕事の合間にドリンクでホッとひと息。

勤務先に縛られず、「好き」に正直に挑戦

就職活動では、生まれ育った福岡で働きたいという思いから、福岡を拠点とする企業をメインに受験しました。そのため、就職活動の終盤にわが社に内定をいただいた際、転勤を伴うため正直悩みました。しかし、幼い頃から好きだったコカ・コーラ社の製品や世界的なブランド力に惹かれ、入社を決意しました。就職活動を通じて、自分は「どこに就職したいか」、ではなく「何をしたいか」に気付くことができたと思います。

入社1年目は広島配属になりました。スーパーの店頭での商品補充や、数十ケースもの段ボールの運搬など、体力勝負の日々でした。慣れない土地で精神的にも体力的にもハードだったため、何度も心が折れそうになりました。しかし、今思い返せば、店頭に立ち、お客さまのそばで現場についてゼロから学んだ経験があるからこそ、現在お得意さまに最良な売場作りとは何かを提案できるのだと感じます。今後も、「深田さんなら安心」と、お得意さまや社内からも信頼される飲料マーケティングのプロを目指していきます。

My Turning Point

決断

決断までのSTEP

STEP 1

福岡の会社を軸に就活開始
大学3年次の12月に就職活動を開始。福岡で働くことを軸に活動し、地方銀行や福岡本社のソフトウェア企業などに内定。

STEP 2

転勤ありの会社に入社を決意
4年次春、転勤を伴うコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社(前コカ・コーラ ウエスト株式会社)の総合職の内定を得る。自分自身が愛着の持てる有形の商品を扱う仕事に魅力を感じ、福岡拠点にこだわらず、挑戦することを決意。

STEP 3

初の赴任地で「現場」を学ぶ
社会人1年目は広島へ。取引先の小売店で商品補充など現場の仕事に取り組み。

STEP 4

マーケティングの仕事に異動
社会人2年目は現在の部署に異動。地元である福岡勤務に!



どんな場所にも
楽しさは転がっている

入社1年目、想像以上にハードな仕事で辞めたいと思ったことが何度もありました。しかし、置かれた状況で楽しさを見つけたかと思えば、直すことで、仕事への意識が徐々に変化。それは学生生活や就職活動でも同じことです。心掛けた次で目の前が少しずつ明るく、変わっていくこともあります。貴重な4年間、悔いのない日々を送ってください。